

国宝高松塚古墳壁画及び国宝キトラ古墳壁画のメンテナンス等について

国立文化財機構古墳壁画 PT 修復班（壁画担当）

○ 高松塚古墳壁画

1) 壁画の維持管理及び関連する資料の保存方法の検討に関する業務

① 壁画の状態確認

修理時に材料を追加した部分、あるいは新規クリーニング作業（紫外線照射、酵素処置等）を施した部分を中心に、修理後の状況について定期的に確認を行っている。

令和8年度は5月、9月、1月に予定している。



状態確認箇所 北壁下部 充填



状態確認箇所 天井3 解体時 MC 噴霧



状態確認箇所 東男子 解体時



状態確認箇所 東男子 充填補強

② メンテナンス作業の状況確認及び打ち合わせ

令和8年度は一般公開がないため、国宝修理装演師連盟が行う週に1回のメンテナンスに合わせて現地およびメール等で状況について共有する。

移転に関する工事が始まり、振動の影響等に対応する必要がある場合は文化庁、連盟と協議しつつ対応する。

③ 新施設への移転関連

- ・ 目地漆喰の養生（床石含む）についての検討
- ・ 劣化緩衝材の処置検討

2) 壁画の修理作業に関する各種データ整理と報告書準備

・ 資料の整理

関連資料についてリスト化と電子化を遂行しており、令和8年度も作業を進めている。（現在、資料のデジタル化終了。（冊子や点検記録は1冊で1点とした。））

令和8年度は、施設保管していた解体前資料を中心にスキニング予定。

○ キトラ古墳壁画

1) 再構成されなかった漆喰片を含む壁画の維持管理及び保存方法の検討

1) -1 集中メンテナンス作業

令和8年度集中メンテナンス：6月、9月、10月

1) -2 「辰」「巳」「申」「午」の保管方法に関する検討

「辰」「巳」「申」の安定化処置を随次、進めている。裏面からの強化と支持を終了し、現在は表打ちを外す作業と令和9年度に向けてのクリーニング方法の検討を行なっている。

令和7年度までに、パラロイドB72溶液で3回含浸強化、ポリアリレートシート（不織布様）1層、ポリアリレート（織様）1層を貼り、シリコン接着剤を用いて2 mm厚のロハセルを3枚貼り付けた上で、表に返し、表面のクリーニングを開始した。溶菌酵素を用いて表面の白色部分の除去を検討しつつ、順次継続している。

令和8年度はこの作業を継続し、令和9～令和10年度に移動とはめ込みの予定である。はめ込みの作業場所や移動のスケジュール・動線などの検討を要する。

午の漆喰側の再構成も順次進行予定。泥の部分については、考古資料などの知見も集めながら引き続き検討予定。

2) 壁画の修理作業に関する資料のアーカイブ化

修理や点検の作業に関する物理的な資料については、目録化し、現在、東京文化財研究所保存修復資料室において保管中であり、適宜、スキャニング等を実施している。